

SANYANG MOTOR CO.,LTD.

3 CHUNG HUA ROAD HUKOU HSINCHU TAIWAN,P.R.C.

TEL:886-3-598-1911 FAX:886-3-598-1844

E-mail:SERVICE@sym.com.tw

<http://www.sym.com.tw>



オーナーズマニュアル

NHR125



1. 目次

1. 目次	1
2. 各部の名称	3
3. 走行前に	4
4. 安全運転	4
5. 走行	5
6. 純正部品の使用	5
7. 各部の名称と機能	6
メーター	6
イグニッションスイッチの操作	7
ハンドルロックスイッチの操作	8
各種スイッチの使い方	8
ブレーキ	10
8. エンジン始動時の重要事項と注意点	11
9. オートバイの運転	12
走行の準備	12
坂道の走行	14
変速操作	14
正しい運転方法	14
スロットルグリップの操作	15
駐車方法	16
10. 乗車前点検・整備	18
日常点検	18
燃料の点検	18
エンジンオイルの点検と交換	19
ブレーキの遊びの点検と調整	20
クラッチレバー	21
スロットルグリップの遊び調整	21
ドライブチェーン	22
タイヤの点検	23
ハンドルバー・フロントショックアブソーバーの点検	23
車体各部の潤滑状態の点検	25
バッテリーの点検と整備	25

1. 目次

ヒューズの点検と交換 26

ウインカーとホーンの点検 27

ヘッドライトとテールライトの点検 27

ブレーキランプの点検 27

スパークプラグの点検 29

エアクリナーの点検 29

配線ゴムキャップ 30

バックミラー 30

ナンバープレート 30

11. 異常や不具合が発生した場合 31

 エンジンが始動しない場合の診断 31

12. エンジン燃料についての推奨事項 31

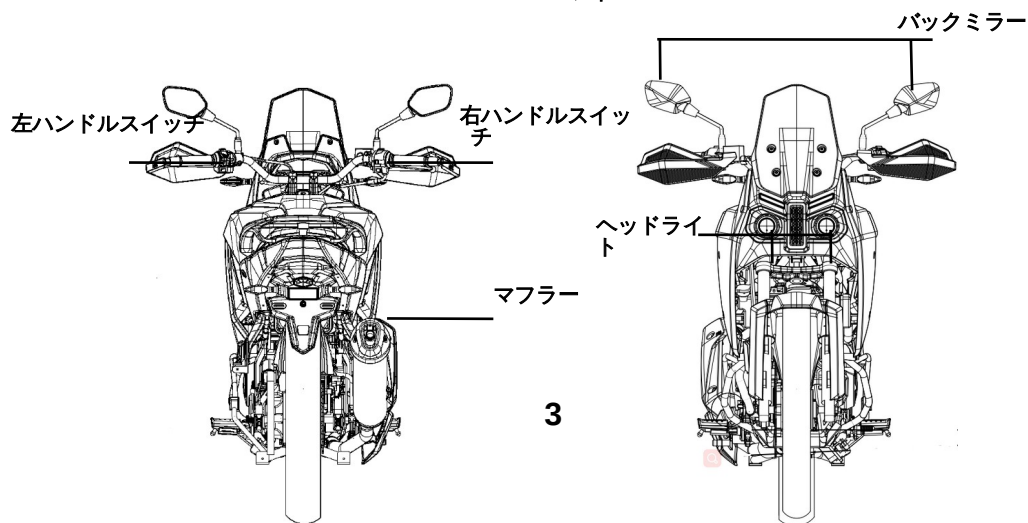
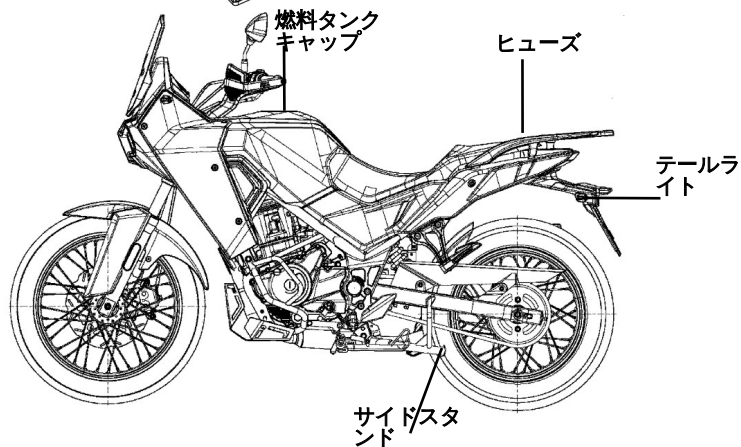
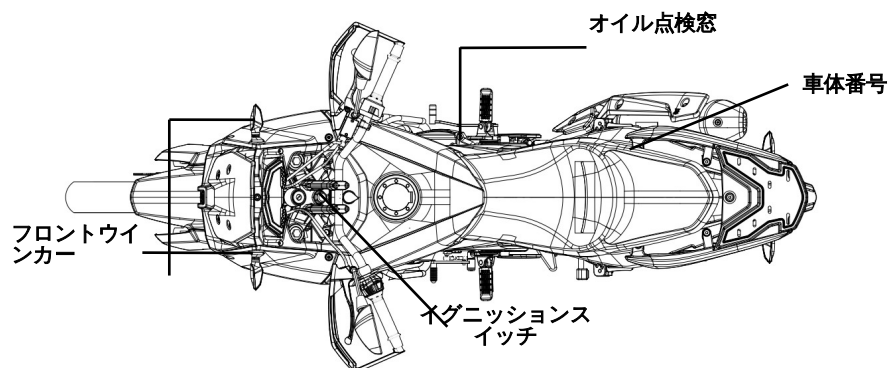
13. オートバイ運転時の注意事項 32

14. 定期点検整備スケジュール 36

15. 諸元 38

2. 各部の名称

MODEL:MG12B4-EU



3. 走行前に

本書では、安全な運転方法や簡単な点検方法など、本車両の正しい使用方法について説明しています。より快適で安全な走行のため、本書をよくお読みください。

より快適にご利用いただくために、SANYANG ディーラーに取扱説明書をお尋ねのうえ、以下の内容をよくお読みください。

- 車両の正しい使用方法。
- 納車前点検・整備について。

この度はお買い上げいただき誠にありがとうございます

車両の性能を最大限に発揮させるため、定期点検・整備を確実に実施してください。

新車ご購入後、最初の 1000km 走行時に正規販売店にて初回点検を受けられることをお勧めします。

その後は 1000km ごとに定期点検を受けてください。

- 車両の仕様・構造が変更され、取扱説明書やカタログに掲載の写真・図と異なる場合は、実際の車両の仕様・構造が優先されるものとします。

4. 安全運転

運転の際はリラックスして適切な服装を心がけ、交通規則を守り、あせらず、常に注意深く落ち着いて運転することが大切です。

通常、購入したばかりの車両は慎重に運転する方がほとんどですが、車両に慣れてくると運転が無謀になりがちで、事故につながるおそれがあります。

□ ご注意ください：

運転の際は必ずヘルメットを着用し、あごひもを確実に締めてください。

袖口が開いていたりゆるんでいたりする服は、風にあおられて袖口がハンドルバーに巻き込まれるおそれがあり、走行の安全性に影響します。

そのため、袖口の締まった服を着用してください。

運転中はハンドルバーを両手でしっかりと握ってください。片手での運転は絶対にしないでください。

制限速度を守ってください。

適切なローヒール靴を着用してください。

スケジュールに従って定期整備・点検を実施してください。

⚠ 警告！！

- 同乗者が排気管でやけどをしないよう、同乗者が必ずステップに足を乗せていることを確認してください。
- 走行後は排気管が非常に高温になっています。点検や整備を行う際は、やけどをしないよう注意してください。
- 走行後は排気管が非常に高温になっています。他人が排気管でやけどをしないよう、駐車する場所を適切に選んでください。

注意：

車両を改造すると、構造や性能に影響を及ぼし、エンジンの調子不良や排気音の悪化を招き、車両の寿命を縮めることになります。

また、改造は法律に違反する行為であり、本来の設計・仕様に適合しなくなります。

改造された車両は保証の対象外となりますので、勝手に車両を改造しないでください。

5. 走行

- ・ 腕、手のひら、腰、つま先など、身体各部の力を抜き、必要なときにすばやく反応できるように、最も楽な姿勢で走行してください。
- ・ ライダーの姿勢は走行の安全性に大きく影響します。常に体の重心をシートの中央に置いてください。重心がシートの後方に偏ると前輪への荷重が減り、ハンドルのふらつきの原因となります。ハンドルが不安定な状態での走行は危険です。
- ・ 旋回時にライダーが体を内側に傾けると、より楽に旋回できます。逆に、体と車両が傾かないと不安定に感じます。
- ・ 凹凸のある未舗装路や不整地では車両の操作が難しくなります。あらかじめ路面状況を把握し、速度を落として、肩の力を使ってハンドルを操作してください。
- ・ 推奨事項：走行の安全性やハンドル操作に影響を与えないよう、フロントのステップに不必要な荷物を積まないでください。

注意：

荷物を積んでいる場合と積んでいない場合とでは、ハンドルの感触がわずかに異なります。積載量が多すぎると、ハンドルが振れて走行の安全性に影響を及ぼすことがあります。したがって、車両に荷物を積みすぎないでください。

注意：

ボディサイドカバーとエンジンの上に、ウエスなどの可燃物を置かないでください。火災により部品が損傷するおそれがあります。破損を防ぐため、積載場所として指定されていない箇所に荷物を積まないでください。

推奨事項

車両の性能を最大限に引き出し、使用寿命を延ばすために：最初の1ヶ月間または最初の1000kmは、エンジンおよび各部品のならし運転期間です。急加速を避け、速度は時速60km以下に抑えてください。

6. 純正部品の使用

車両の性能を最大限に維持するためには、各部品の品質・材質・加工精度が設計基準に適合している必要があります。「純正部品」は、車両本来の製造に使用されているものと同じ高品質な材料から作られています。純正部品は、高度な工学技術と厳格な品質管理のもとで設計仕様を満たすまで市場に出回ることはありません。そのため、部品を交換する際は「正規販売店または特約店」から「純正部品」を購入する必要があります。安価な模造品や代替部品を市場で購入した場合、品質や耐久性についての保証は一切できません。また、予期せぬ不具合が発生したり、車両の性能が低下したりするおそれがあります。

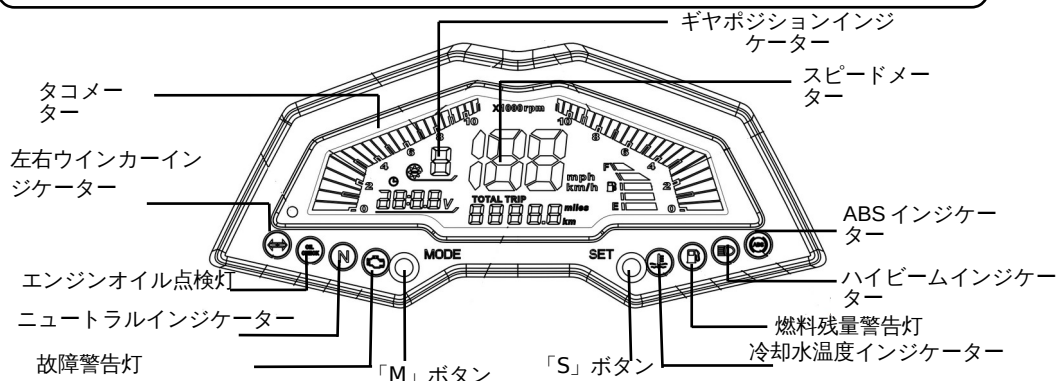
- ・ 車両本来の性能と長い耐用年数を保つため、必ず純正部品をご使用ください。

7. 各部の名称と機能

(以下は4ストロークエンジン車両の基本的な操作方法であり、車種によって異なる場合があります。詳細は本書巻末をご参照ください。)

Sメーター S

スピードメーターパネルの図はモデルによって異なる場合がありますが、配置は通常同じです。



注意：

メーターパネルやヘッドライトなどのプラスチック部品は、破損を避けるためガソリンなどの有機溶

- **スピードメーター：**
走行速度 (km/h) を表示します。
- **オドメーター：**
総走行距離を示します。
- **トリップメーター：**
区間走行距離を計測できます。
- **タコメーター：**
エンジン回転数を表示します。
- **ハイビームインジケーター：**
ハイビームヘッドライトを点灯すると、このインジケーターが点灯します。
- **ウインカー (左/右) インジケーター：**
ウインカースイッチを操作した方向に応じて、左右いずれかのインジケーターが点滅します。
- **ニュートラルインジケーター：**
変速機がニュートラル (中立) 位置にあることを示します。
- **ギヤポジションインジケーター：**
現在のギヤ段を表示します。
- **故障警告灯**
ECU に異常が発生した場合、警告灯が点灯し続けます。
- **燃料計：**
このメーターの針は、タンク内に残っている燃料の量を示します。
- **ABS インジケーター： (ABS 搭載車のみ)**
ABS (アンチロックブレーキシステム) インジケーターランプは、イグニッションスイッチをオンにすると点灯し、スクーターが走行を開始すると間もなく消灯します。ABS が正常であれば消灯したままです。ABS に異常がある場合はインジケーターが点灯したままになります。インジケーターランプが点灯している間は ABS は作動しませんが、ABS が故障しても通常のブレーキシステムは正常に機能します。

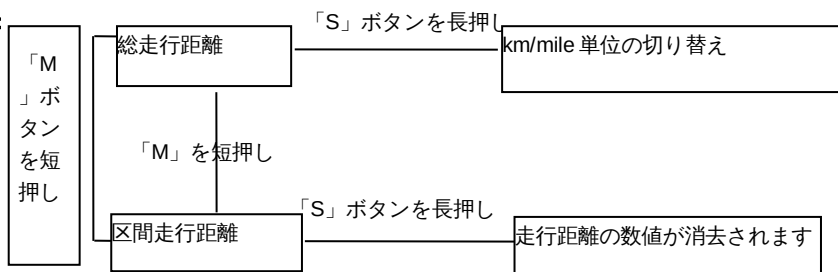
エンジンオイル交換インジケーター

走行距離が約 1,000km に達すると、エンジンオイル交換インジケーターが点灯し、エンジンオイルの点検・交換時期であることを知らせます。エンジンオイル交換後、ODO モードで「S」ボタンを長押しするとインジケーターが消灯します。（2 回目は 2,000km、3 回目以降は 3,000km ごとにインジケーターが点灯します。）

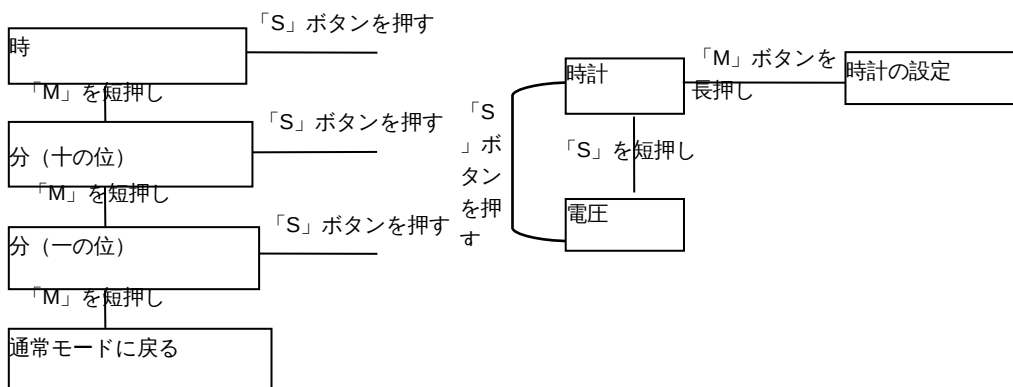
冷却水温インジケーター

エンジン冷却水の温度を表示します。冷却水温インジケーターが点灯した場合は、冷却水量が十分か、ファンモーターが作動しているかを点検してください。

走行距離の設定：



時計の設定：



燃料残量警告灯：

タンク内の燃料が少なくなると、警告灯が点灯します。

Sイグニッションスイッチの操作S

イグニッションスイッチ



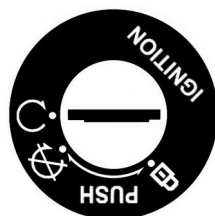
「ON」位置：

- この位置でエンジンを始動し、各種ライトを操作できます。
- この位置ではイグニッションキーを抜くことはできません。



「OFF」位置：

- この位置ではエンジンおよびライトが切れ、始動することはできません。
- この位置ではイグニッションキーを抜くことができます。



§ハンドルロックスイッチの操作§



「ハンドルロック」位置

- ハンドルを左いっぱいになり、キーを差し込んでイグニッションスイッチを軽く押し込みながら時計回りに回し、続けて左に軽く回して「ロック」位置に合わせます。
- この位置でハンドルがロックされます。
- この位置ではイグニッションキーを抜くことができます。
- ロックを解除するときは、キーを「LOCK」位置から「OFF」位置へ回すだけです。

注意：

シートをロックする前に、必ずキーを抜いて携帯してください。

注意：

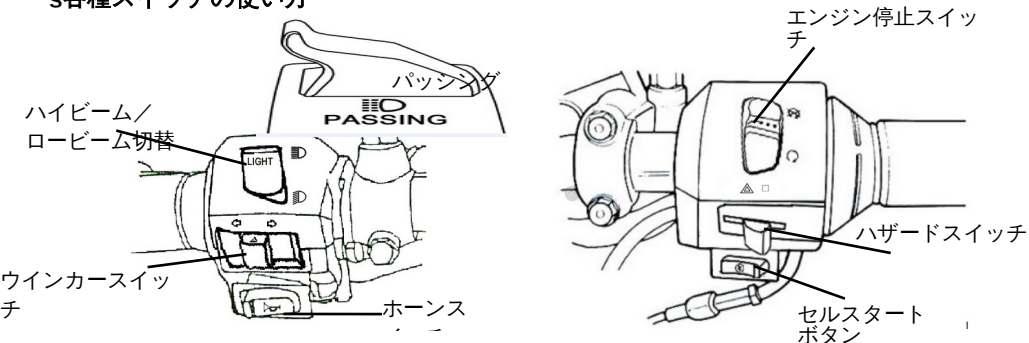
走行中はイグニッションスイッチを絶対に操作しないでください。走行中にイグニッションスイッチを「OFF」位置にすると、電気系統が遮断され、重大な事故につながるおそれがあります。イグニッションスイッチは、車両が完全に停止してからOFFにしてください。

盗難防止のため、駐車する際はハンドルをロックしてください。

車両から離れる際は、必ずハンドルをロックしたうえでキーを抜き、携帯してください。

エンジン停止後もイグニッションスイッチを「ON」位置のまま長時間放置すると、バッテリーの容量が低下し、エンジンの始動性に影響を及ぼすおそれがあります。

§各種スイッチの使い方



・エンジン停止スイッチ



緊急時にこの位置に切り替えるとエンジンが停止します。



この位置に切り替えるとエンジンを始動できます。

・セルスターターボタン



エンジン始動用のスターターモーターボタン（スイッチ）です。

メインスイッチを「ON」にした状態でこのボタンを軽く押すと、エンジンが始動します。

注意：

8

エンジンが始動したら、直ちにこのボタンを放してください。エンジン始動後に再度押すと、エンジンの損傷につながるため絶対に行わないでください。

これは安全機構であり、クラッチレバーを握っているか、変速機がニュートラルの位置にある場合のみ、エンジンが始動します。

- ・ハイビーム/ロービーム切替スイッチ

ヘッドライトのハイビームとロービームを切り替えるスイッチです。このスイッチを押すことでハイビームとロービームを切り替えます。



これはハイビーム側です。



ロービームです。（市街地走行時はロービームにしてください）

- ・ホーンスイッチ



イグニッションスイッチが「ON」位置のときにこのボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

注意：

「ホーン禁止」区域ではこのボタンを押さないでください。

- ・ウインカースイッチ

ウインカーは、右左折や車線変更の際に使用します。

イグニッションスイッチを「ON」位置にし、ウインカースイッチを左右いずれかにスライドさせると、ウインカーが点滅します。

解除するには、ウインカースイッチを元の位置に戻すだけです。



右側のウインカーが点滅している場合は、右折の意思を示します。



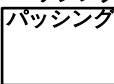
左側のウインカーが点滅している場合は、左折の意思を示します。

- ・ハザードスイッチ



エンジン始動中にこの位置に切り替えると、前後のウインカーが同時に点滅します。

- ・パッシングスイッチ



イグニッションスイッチを「ON」位置にしてこのボタンを押すと、ヘッドライトのハイビームが直ちに点灯し、前方車両の運転者に追い越しの意思を知らせます。（このとき、ハイビームインジケーターも点灯します。）ボタンを放すと元の位置に戻ります。

Sブレーキ S

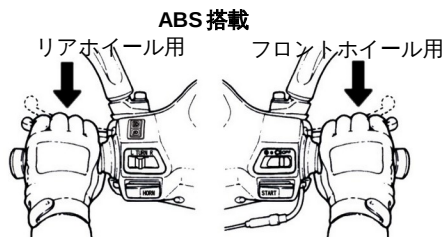
- 不要な急ブレーキは避けてください。
- ブレーキをかける際は、フロントブレーキとリアブレーキを同時に使用してください。
- 左ブレーキレバーを握るとリアブレーキが作動します（ABS 搭載車）。
- 長時間ブレーキをかけ続けることは避けてください。ブレーキが過熱し、制動効力が低下するおそれがあります。
- 雨天時など路面が滑りやすいときは、速度を落として早めにブレーキをかけてください。急ブレーキは、スリップや転倒を防ぐため絶対に行わないでください。
- フロントブレーキまたはリアブレーキのみを使用すると、車両が片側に引っ張られ、転倒の危険性が高まります。

- ABS 搭載車であっても、コーナリング中のブレーキ操作はホイールスリップを引き起こすおそれがあります。カーブを曲がるときは、前後ブレーキを軽くかける程度にとどめるか、できるだけブレーキをかけないようにしてください。カーブに入る前に十分減速してください。

《エンジンブレーキ》

スロットルグリップを元の位置に戻し、エンジンブレーキをかけてください。

長い下り坂や急な坂道を走行する際は、フロントブレーキとリアブレーキを断続的にかける必要があります。

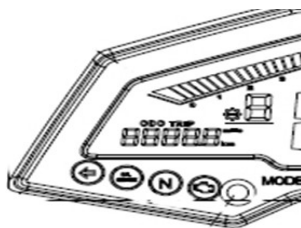
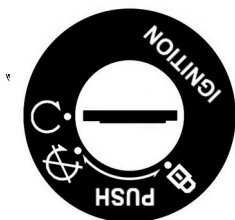


8. エンジン始動時の重要事項と注意点

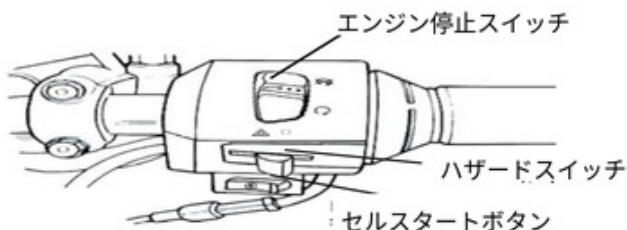
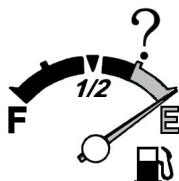
エンジンの始動方法

注意：

エンジンを始動する前に、オイル量と燃料量を確認してください。エンジンは風通しの良い場所で始動してください。



1. イグニッションキーでイグニッションスイッチを「ON」位置に回します。
2. 変速機をニュートラルに入れます。ニュートラルインジケーター（緑）が点灯します。



3. 燃料タンクに十分な燃料が入っていますか。タンクを押します。
4. スロットルグリップを回さずに、スターターボタンを押します。

注意：

エンジンが始動したら、直ちにスターターボタンを離してください。

エンジン作動中はスターターボタンを押さないでください。

スターターボタンを3~4回試してもエンジンが始動しない場合は、スロットルを開けてください。

始動後は2~3分間エンジンを暖機し、その後チョークレバーを閉位置（A位置）に戻してください。

注意：

スターターモーターを3～5秒作動させてもエンジンが始動しない場合は、スロットルグリップを1/8～1/4回転させてから、再度スターターボタンを押すと始動しやすくなります。

スターターモーターの損傷を防ぐため、スターターボタンを15秒以上連続して押さないでください。スターターボタンを15秒以上押してもエンジンが始動しない場合は、いったん操作をやめ、10秒待ってから再度始動してください。

車両を長期間放置していた場合や、燃料が空になってから給油した場合は、エンジンが始動しにくくなります。この場合は、スロットルグリップを閉位置に保ったまま、スターターレバーまたはスターターボタンを数回操作してエンジンを始動してください。

低温時の始動では、エンジンの暖機に数分かかることがあります。

排気ガスには有害なガス（CO）が含まれていますので、エンジンは必ず風通しの良い場所で始動してください。

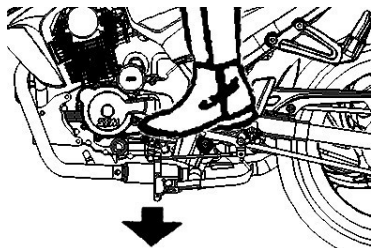
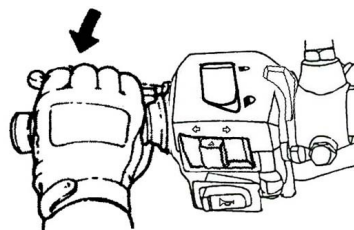
9. オートバイの運転

S走行の準備S

- ・ 走行前にブレーキとタイヤの空気圧を点検してください。
- ・ 車両の左側からまたがり、転倒防止のため足を地面に着けます。
- ・ エンジンを始動し、暖機します。

1. クラッチレバーを完全に握り、シフトペダルを踏み下げて1速に入れます。

2. 続けてクラッチレバーをゆっくり放しながら、同時にスロットルを徐々に開けると、車両が動き出します。



注意：

エンジン始動後、走り出す前にスロットルグリップを急激に操作してエンジン回転数を上げないでください。

- ・ 走行速度に応じてギヤ段を変更してください。
- ・ 速度とギヤ段の関係は右の表のとおりです。
- ・ 表に従ってギヤ段を変更することで、車両の良好な性能と燃費が得られます。

速度	20	40	60	80	100	120	140
1速							
2速							
3速							
4速							
5速							

注意：

エンジンが停止しているときは変速操作を行わないでください。

変速機の損傷を防ぐため、シフトペダルを乱暴に操作しないでください。

他車を追い越す際は走行速度に注意してください。

注意：

最初の 1000km は、エンジンの状態を良好に保ち長寿命化するため、低速での走行が望めます。
最初の 300km 走行後にエンジンオイルを交換し、オイルフィルタースクリーンを清掃してください。
エンジンオイル交換直後は、低速で走行することが望めます。
走行を始める前にエンジンを暖機してください。

S坂道の走行S

上り坂

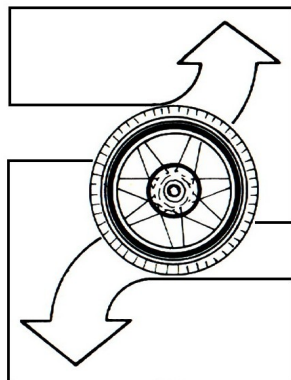
緩やかな上り坂は高いギヤ段のまま走行できます。積載量が多い場合や急な上り坂では、必ず低いギヤ段で走行してください。

下り坂

緩やかな下り坂ではスロットルを閉じてブレーキを操作してください。積載量が多い場合や急な下り坂では、低いギヤ段にシフトしてください。

注意：

ブレーキは前後輪の両方を使用してください。

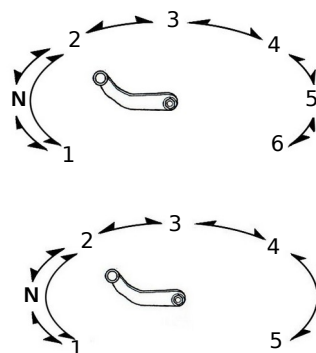


S変速操作S

- シフトペダルはエンジン左側にあります。急な走行時や下り坂では、変速機を低いギヤ段にシフトしてください。
- クラッチレバーを完全に握り、シフトペダルを適切な位置まで操作したのち、クラッチレバーを放してギヤを変更します。
- エンジンが停止しているときは変速操作を行わないでください。
- シフトペダルを乱暴に操作しないでください。変速機の損傷につながります。
- 他車を追い越す際は、1段低いギヤにシフトしてください。

シフトダウンの限界速度は以下のとおりです。

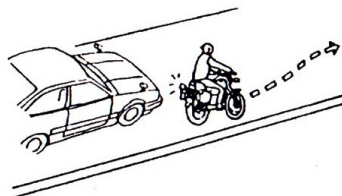
5 速 → 4 速	時速 80km 以下
4 速 → 3 速	時速 70km 以下
3 速 → 2 速	時速 50km 以下
2 速 → 1 速	時速 25km 以下



S正しい運転方法S

最適な発進方法

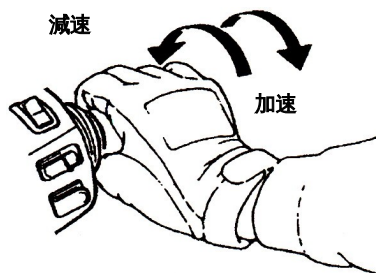
- 発進前にウinkerを点灯させ、後方から車両が来ていないことを確認してください。



§スロットルグリップの操作§

加速：速度を上げること。坂道を走行する際は、スロットルグリップをゆっくり回し、エンジンの出力を発揮させてください。

減速：速度を落とすこと。



性能維持について－ならし運転期間中は、エンジンの状態を良好に保ち長寿命化するため、**低速走行が望まれます。**

最初の1ヶ月間または最初の1000kmは、時速60kmを超えないでください。

急加速は避けてください。

無負荷状態で8000rpmを超える高回転を避けてください。

アイドリング状態からスロットルを全開にしないでください。

急ブレーキや急な転回は絶対に行わないでください。

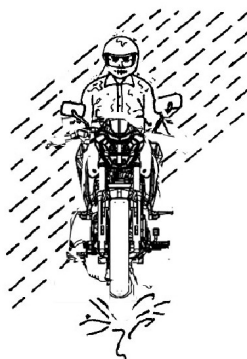
急激なブレーキや転回はホイールスリップを引き起こすおそれがあります。

雨天時や路面が濡れているときに急ブレーキや急な転回を行うと、ホイールスリップが発生し、車両の制御を失うおそれがあります。

雨天時の走行には十分注意してください。

雨天時や路面が濡れているときは、制動距離が長くなります。早めに減速してブレーキをかけてください。

下り坂ではスロットルを完全に閉じ、前後ブレーキを使用して減速してください。



S駐車方法S

ブレーキ - 前後輪のブレーキを両方使用してください。

- スロットルを閉じてからブレーキレバーを握ります。
- 「はじめは軽く、その後しっかりと握る」のが最良のブレーキのかけ方です。

注意：

フロントブレーキまたはリアブレーキのみの使用は、ホイールスリップの原因となることがあります。

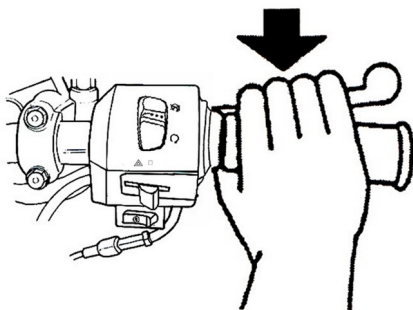
・ 駐車場に近づいたら：

1. 早めにウインカーを点灯させ、前方、後方、左右の車両に注意しながら、内側の車線に入ってゆっくりと近づいてください。
2. スロットルグリップを元の位置に戻し、あらかじめブレーキをかけてください。（ブレーキをかけるとブレーキランプが点灯し、後続車両の運転者に警告します。）

・ 完全に停止したら：

3. ウインカースイッチを元の位置に戻し、イグニッションスイッチキーを「OFF」位置に回してエンジンを停止させてください。
4. エンジンを停止させた後、車両の左側から降車し、交通の妨げにならず地面が平坦な駐車場所を選んで、メインスタンドを立ててください。
5. 左手でハンドルバーを握り、右手でシート前端を押さえるか、シート左下側の駐車用ハンドルを握ってください。
6. 右足でメインスタンドを踏み、しっかりと地面に立ててください。

ご注意：盗難を防ぐため、駐車後はハンドルロックをかけ、キーを抜いてください。



注意：

交通の妨げにならない安全な場所に駐車してください。

10.乗車前点検・整備

(以下の部品については、部品配置図を参照してください。)

S日常点検S

点検項目		点検のポイント
エンジンオイル		エンジンオイルは十分に入っていますか？
燃料		十分な量がありますか？オクタン価 90 以上ですか？
ブレーキ	フロント	制動状態は良好ですか？ (ブレーキレバーの遊び：10～20mm)
	リア	制動状態は良好ですか？ (ブレーキペダルの遊び：20～30mm)
タイヤ	フロント	タイヤ空気圧は正常ですか？ (標準値：1.75kgf/cm2)
	リア	タイヤ空気圧は正常ですか？ (標準値：1 名乗車時 2.0kgf/cm2、2 名乗車時 2.25kgf/cm2)
ハンドルバー		ハンドルバーに異常な振動や操作の重さはありませんか？
スピードメーター、灯火類、バックミラー		正常に作動していますか？ 灯火は点灯しますか？後方からはっきり見えますか？
主要部品の締め付け状態		ネジやナットに緩みはありませんか？
異常箇所		以前の不具合が残っていませんか？

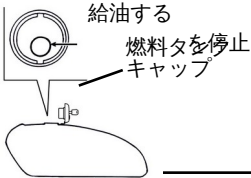
注意：

日常点検で異常が見つかった場合は、車両を再び使用する前に問題を解消し、必要に応じて「ディーラーまたは正規サービス店」で点検・修理を受けてください。

S燃料の点検S

目的地まで十分な燃料があるか、残量を確認してください。

- 本車両のエンジンは、無鉛ガソリンを使用するように設計されています。
オクタン価 90 以上のものを使用してください。
- 給油の際は、メインスタンドをしっかりと地面に立て、エンジンし、車両に火気を近づけないでください。
- 燃料タンクキャップを回して開け、ガソリンを給油してください。
- 給油の際は、燃料の上限レベルを超えて注油しないでください。
- 給油後は、燃料コックを「ON」位置に回してください。



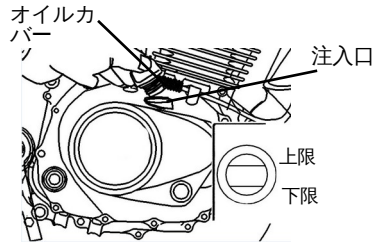
注意：

給油の際はエンジンを停止し、火花や火気を近づけないでください。

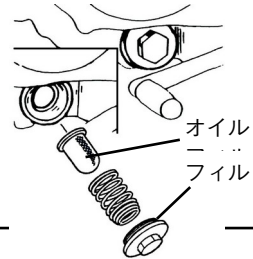
Sエンジンオイルの点検と交換S

・ 点検：

- 1. 平坦な場所でメインスタンドを使用して車両を支え、エンジン停止後3～5分待ってからオイルカバーを取り外します。
- 2. オイルレベル窓から、オイル量が上限と下限の間にあるか確認してください。
- ・ オイル量が下限を下回っている場合は、上限まで補充してください。（シリンダーやクランクケースなどからの漏れも点検してください。）



125cc～200cc モデル：



オイル交換：

- ・ 交換時期：新車は最初の 1000km、以降は 1000km ごとに点検し、5000km ごとにエンジンオイルを交換してください。（詳細は本書 32 ページを参照してください。）ほこりの多い場所や寒冷地で使用する場合は、より頻繁に整備してください。
- ・ エンジンの最大性能を維持するため、1000km ごとにエンジンオイルの量を点検してください。オイルが不足している場合は、上限まで補充してください。
- ・ エンジンオイル：SL/CF SAE 10W-30 規格以上のエンジンオイルを使用してください。それ以外を使用した場合、故障は保証の対象となりません。SYM では MOTUL 3100GOLD 4T 10W-40 を推奨しています。
- ・ オイル容量：1.2 リットル（フィルターを交換しない場合は 1.0 リットル）
- ・ （詳細は本書の諸元ページを参照してください。）

警告：ペーパー式オイルフィルターエレメントを交換する際は、Oリングオイルシールも同時に交換し、正しい取り付け方向に注意してください。

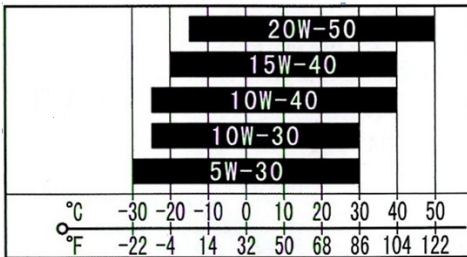
【オイルフィルターの清掃】

オイルフィルターはエンジン左側、シフトペダル付近にあります。
フィルターナットを開けてフィルターを取り外します。
ガソリンまたはエアスプレーガンを使用して、フィルターから異物を除去してください。

警告：

車両が平坦でない場所に停めてある場合や、エンジン停止直後にオイルレベルを確認すると、正確な値が得られません。
エンジン停止直後は、エンジンとマフラーが高温になっています。エンジンオイルの点検や交換の際は、やけどをしないよう十分注意してください。
補充後にオイルレベルが再び下限に近づく場合は、エンジンからの漏れを点検し、再度補充してください。
オイルを補充する際は、火花や火気に近づけないでください。
補充後は、ドレンボルトとオイルゲージを確実に締め付けてください。

多くの条件では SAE 10W-30 オイルが推奨されますが、走行地域の気候条件に応じてオイル粘度の変更が必要になる場合があります。



API Classification	
SN	high
SM	↑
SL	
SJ	

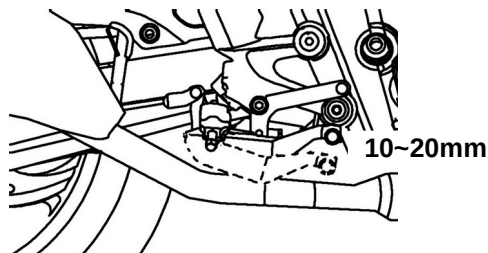
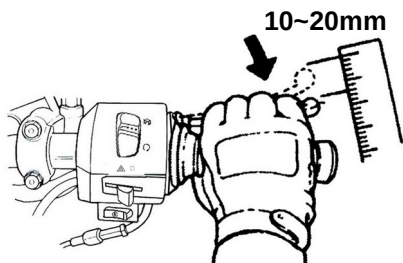
Sブレーキの遊びの点検と調整S

点検：（ブレーキレバーとペダルの遊びは、必ずエンジンを停止した状態で点検してください。）

- 前後輪のブレーキレバーおよびペダルの遊び。

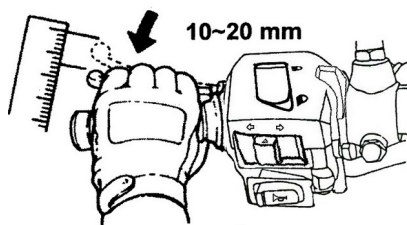
フロントブレーキレバーの遊び（ブレーキが効き始めるまでのレバーのストローク）は10～20mmが適正です。レバーを強く握った際にスポンジのような感触がある場合は異常です。

リアブレーキペダルの遊び（ブレーキが効き始めるまでのペダルのストローク）は10～20mmが適正です。ペダルを強く踏んだ際にスポンジのような感触がある場合は異常です。



S クラッチレバーS

クラッチレバーの遊びは10～20mmが適正です。
遊びを点検し、必要に応じて調整ナットを回して調整してください。



注意：

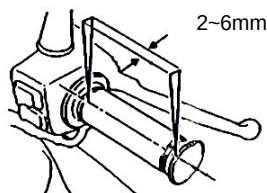
クラッチはエンジンの動力を後輪に伝える役割を果たします。クラッチの調整が不適切な場合、変速がしにくくなったり、クラッチ板が滑ったりする原因となります。

調整後は、変速がスムーズに行えることを確認してください。

クラッチレバーの遊びが大きすぎたり小さすぎたりすると、クラッチ板の損傷につながりやすくなります。

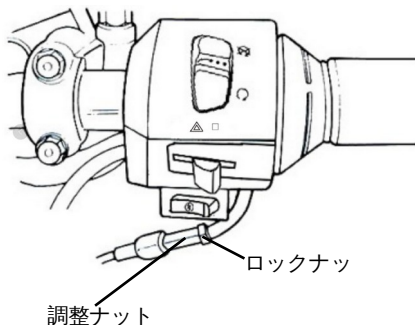
S スロットルグリップの遊び調整S

- 適正な遊びは、スロットルグリップが2～6mm 回転する範囲です。
- まずロックナットを緩め、調整ナットを回して調整します。調整が終わったら、ロックナットを確実に締め付けてください。



点検項目：

スロットルグリップケーブルが、閉位置から全開位置までスムーズに動くか確認してください。
ハンドルを左右に切り、スロットルグリップケーブルが引っかかりがないか確認してください。
スロットルグリップケーブルが他のケーブルと干渉し、スムーズな操作の妨げになっていないか確認してください。

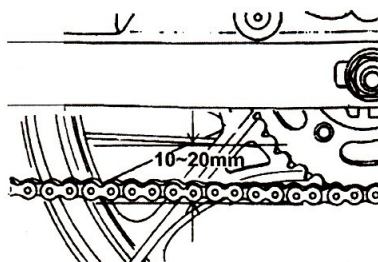


§ドライブチェーン§

ドライブチェーンは使用時間の経過とともに伸びてたるみが生じます。そのため、定期的な点検と調整が必要です。

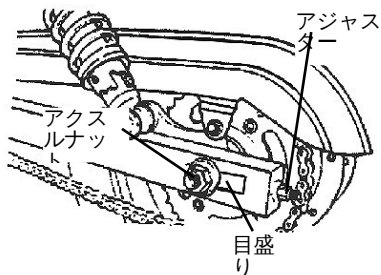
<ドライブチェーンの点検>

- ドライブチェーンの中央下部で点検し、チェーンのたるみは10～20mmが適正です。
- メインスタンドで車両を直立させ、後輪を回してドライブチェーンがスムーズに動くか、異音がないかを確認してください。
- 異常がある場合はドライブチェーンを調整してください。



<ドライブチェーンの調整>

1. 後輪のアクスルナットを緩めます。
2. 調整ナットを回して調整し、調整後にアクスルナットを締め付けます。
3. リアブレーキペダルの遊びを点検し、必要に応じて調整してください。



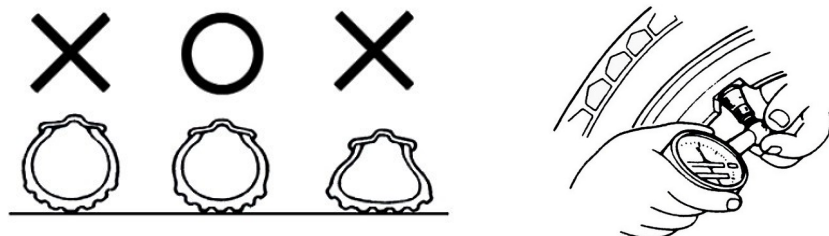
注意：

左右のアジャスターは同じ目盛りに合わせて調整してください。

ドライブチェーンはこまめに清掃し、注油してください。

Sタイヤの点検S

- タイヤの点検と空気補充は、エンジンを停止した状態で行ってください。
- タイヤの接地形状に異常がある場合は、空気圧ゲージで点検し、規定の空気圧まで補充してください。
- タイヤの空気圧は、タイヤが冷えている状態で空気圧ゲージを使用して点検してください。



標準タイヤ空気圧については仕様諸元を参照してください。



- タイヤの前面および側面（サイドウォール）にひび割れや損傷がないか目視で確認してください。
- トレッドに釘や小石などの異物が刺さっていないか目視で確認してください。
- 「トレッド摩耗インジケーター」の状態を確認し、トレッド溝の深さが不足していないか点検してください。
- 摩耗インジケーターが露出しているタイヤは摩耗限度に達しているため、直ちに交換してください。

注意：

タイヤの空気圧異常、摩耗、ひび割れは、ハンドル操作不能やバンクを引き起こす最も重要な原因です。

Sハンドルバー・フロントショックアブソーバーの点検S

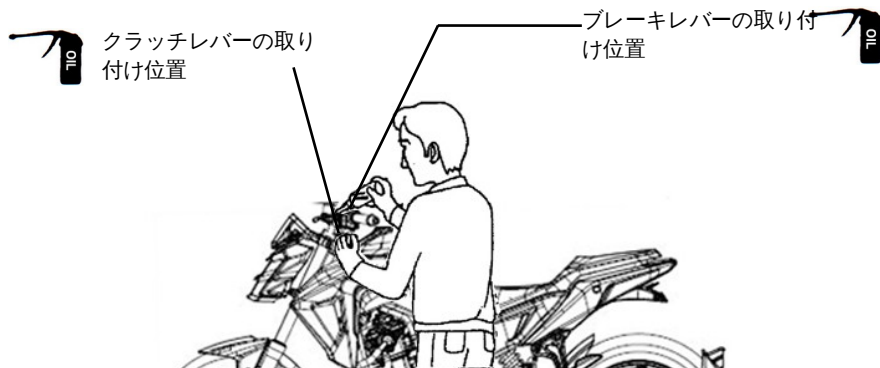
- この点検はエンジンを停止し、イグニッションキーを抜いた状態で行ってください。
- フロントショックアブソーバーに損傷がないか目視で確認してください。
- ハンドルバーを上下に操作し、フロントショックアブソーバーの曲がりによる異音がないか確認してください。
- レンチでフロントショックアブソーバーのボルトとナットの締め付け状態を確認してください。
- ハンドルバーを上下・左右・前後に揺すり、ガタつき、過度な抵抗、片側への引っ張りがないか確認してください。

さい。

- ブレーキケーブルによってハンドルバーが必要以上に引っ張られていないか確認してください。
- 異常が見つかった場合は、正規販売店または特約店で点検・調整を受けてください。

S 車体各部の潤滑状態の点検 S

- 車体各部の可動部に十分な潤滑がなされているか点検してください。
(例：メインスタンド、サイドスタンド、ブレーキレバーなどの可動部)



S バッテリーの点検と整備 S

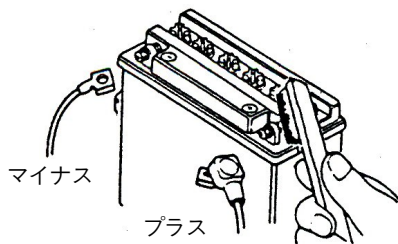
- 本車両にはメンテナンスフリー型バッテリーが搭載されているため、電解液の点検・補充は不要です。異常が見つかった場合は、SYM 正規販売店または特约店で点検を受けてください。

(バッテリー端子の清掃)

バッテリー端子を取り外し、汚れや腐食があれば清掃してください。

バッテリーの取り外し手順は次のとおりです。

イグニッションスイッチを「OFF」位置にし、まずマイナスケーブルのネジを外してマイナスケーブルを外します。続けてプラスケーブルのネジを外し、プラスケーブルを外します。



注意：

バッテリー端子が腐食して白い粉が付着している場合は、温水で清掃してください。端子に明らかな腐食が見られる場合は、ケーブルを外してから、スチールブラシまたはサンドペーパーで腐食を取り除いてください。清掃後にバッテリーケーブルを取り付け、端子に薄くグリースを塗布してください。バッテリーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行ってください。

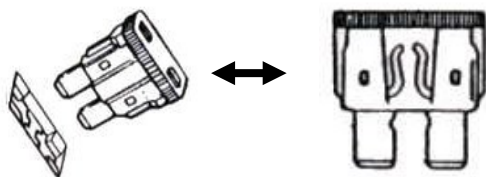
注意：

本バッテリーは密閉型です。キャップは絶対に外さないでください。バッテリーを長期間使用しない場合、漏電や自然放電を防ぐため、満充電にしたうえで車両から取り外し、風通しが良く直射日光の当たらない場所に保管してください。バッテリーを車両に搭載したままにする場合は、マイナスケーブルを外してください。バッテリーを交換する場合は、同一の密閉型バッテリー（メンテナンスフリー）と交換してください。

Sヒューズの点検と交換S

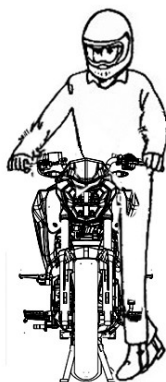
メインスイッチをOFFにし、ヒューズが切れていないか確認してください。切れたヒューズは指定のヒューズと交換してください。異なる容量のヒューズは使用しないでください。また、銅線などをヒューズの代用として使用しないでください。

- 左サイドカバーを取り外すと、バッテリー付近にヒューズホルダーがあります。
 - ヒューズホルダーを開けてヒューズを引き抜き、破損や断線がないか確認してください。ヒューズを交換する際は、配線コネクタにしっかりと固定してください。接続が緩んでいると、過熱や損傷の原因となります。
- 電球などの電装部品を交換する際は、規定の仕様に合った部品のみを使用してください。規定外の仕様の部品を使用すると、ヒューズが切れたりバッテリーが過放電したりする恐れがあります。
- 車両を洗淨する際は、ヒューズボックスに直接、またはその周囲に水をかけないでください。
 - 新しいヒューズがすぐにまた切れる場合は、再交換する前に故障の原因を確認してください。原因不明でヒューズが切れた場合は、販売店で点検を受けてください。



Sウインカーとホーンの点検S

- ・ イグニッションスイッチキーを「ON」位置にしてください。
- ・ ウインカースイッチをオンにし、前後左右のウインカーが点滅すること、および警告ブザーが鳴ることを確認してください。
- ・ ウインカーレンズに汚れ、ひび割れ、緩みがないか確認してください。
- ・ ホーンボタンを押して、音が鳴るか確認してください。



注意：

ウインカーには規定の仕様の電球を使用してください。使用しない場合、ウインカーが正常に作動しなくなるおそれがあります。

曲がる、または車線変更する前にウインカーを点灯させ、後続車のドライバーに知らせてください。

使用後はウインカーのボタンを押して直ちに消灯してください。消灯しないと、両側のウインカーが点滅したままとなり、後続車のドライバーを混乱させるおそれがあります。

Sヘッドライトとテールライトの点検S

- ・ イグニッションスイッチを「ON」位置にし、ヘッドライトとテールライトのスイッチを入れ、点灯することを確認してください。
- ・ 壁などにヘッドライトを当てて、明るさと照射角度が適正か確認してください。
- ・ ライトカバーに汚れ、ひび割れ、緩みがないか確認してください。

Sブレーキランプの点検S

- ・ イグニッションスイッチキーを「ON」位置にし、前後輪のブレーキレバーを握って、ブレーキランプが点灯するか確認してください。
- ・ ブレーキランプカバーに汚れ、ひび割れ、緩みがないか確認してください。

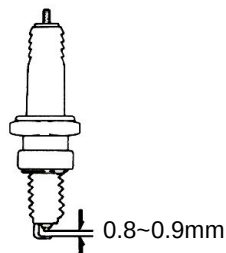
注意：

電気系統の損傷、電球の焼損、バッテリーの放電を防ぐため、規定の仕様の電球のみを使用し、異なる仕様の電球は使用しないでください。

過負荷やショートを防ぐため、電装部品を改造したり追加したりしないでください。重大な場合、火災が発生し車両が焼失するおそれがあります。

§スパークプラグの点検§

- 電極の汚れやプラグギャップの異常は始動不良の原因となるため、定期的に点検・調整してください。
- スパークプラグコードのキャップを外します。
- 電極に汚れやカーボン付着がないか確認してください。
- 電極に付着したカーボンをスチールワイヤーで除去し、ガソリンでスパークプラグを清掃してから、布で拭いて乾かしてください。
- 電極を確認し、隙間を 0.8~0.9 mm に調整してください。(シックネスゲージで確認してください)
- スパークプラグを手で締められるところまで締めた後、レンチでさらに 1/2~3/4 回転締め付けてください。



警告：

走行後のエンジンは非常に高温になっています。やけどをしないよう注意してください。

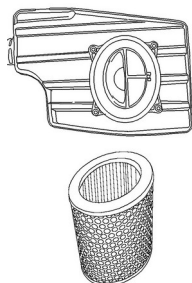
※本車両のエンジン仕様に適合し、メーカーが推奨するスパークプラグのみを使用してください。

(仕様諸元を参照してください。)

§エアクリーナーの点検§

エアクリーナーがほこりで目詰まりすると、エンジン性能や燃費に影響が出るため、定期的な整備が重要です。

1. フロントシートを取り外します。
2. 4本のネジを外してエアクリーナーカバーを取り外します。
3. エアクリーナーフィルターエレメントを取り外し、エアガンで汚れを十分に吹き飛ばしてください。



注意：

ほこりの堆積は、出力の低下や燃費の悪化を引き起こす主な原因の一つです。

ほこりの多い道路を頻繁に走行する場合は、エンジンの寿命を延ばすため、エアクリーナーエレメントの交換や清掃をより頻繁に行ってください。

エアクリーナーの取り付けが不適切な場合、ほこりがシリンダー内に吸い込まれ、早期摩耗や出力の低下、エンジン寿命の短縮を招くおそれがあります。

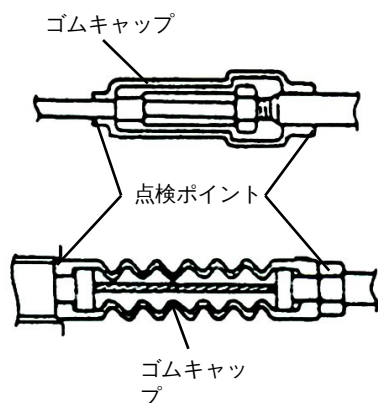
車両を洗淨する際は、エアクリーナーを濡らさないよう注意してください。濡れるとエンジンが始動しにくくなります。

エアクリーナーに水が入るとエンジンの始動不良を招くため、洗車時にエアクリーナーへ水が入らないようにしてください。

§配線ゴムキャップ§

ゴムキャップは配線を保護するためのものです。正しい位置に収まっているか、こまめに確認してください。

洗車の際は、配線に直接高圧の水をかけたり、ブラシを使用したりしないでください。配線の汚れがひどい場合は、布で拭き取ってください。



§バックミラー§

シートに座り、バックミラーに映る視界が適切であることを確認してください。

§ナンバープレート§

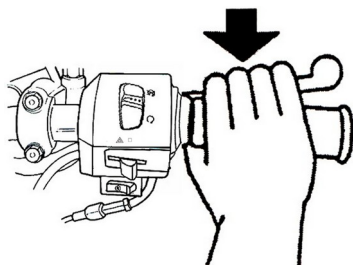
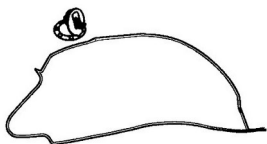
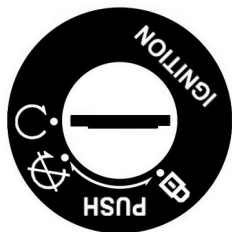
ナンバープレートの汚れ、変形、損傷を点検し、確実に固定されていることを確認してください。

排気に異常がないか点検してください。

これまでに見つかった異常がすべて解消されていることを確認してください。

11.異常や不具合が発生した場合

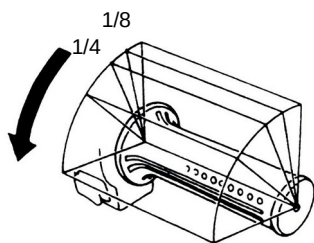
Sエンジンが始動しない場合の診断S



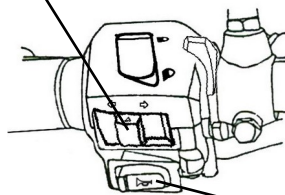
(1). イグニッションスイッチ
キーは「ON」位置になって
いますか？

(2). 燃料タンクに十分な燃料があ
りますか？

(3). スタートボタンを押す際
に、前輪または後輪のブ
レーキがかかっています
か？



ウインカースイッチ



ホーンスイッチ

(4). スタートボタンを押しながらスロットルグ
リップを回していませんか？

(5). イグニッションスイッチキーを「ON」位置
にしてホーンボタンを押してください。ホー
ンが鳴らない場合、ヒューズが切れている可
能性があります。

【上記の項目に問題がないにもかかわらずエンジンが始動しない場合は、直ちに正規販売店または特約
店で点検を受けてください。】

12.エンジン燃料についての推奨事項

- 本車両は、オクタン価 90 以上の無鉛ガソリンを使用するよう設計されています。

13.オートバイ運転時の注意事項

1. メインスタンドで車両を立て、サドルの左側に立ちます。
車両を前方に押し出してメインスタンドを立てます。

注意：

メインスタンドを立てる前にエンジンを始動しないでください。

2. 車両の左側から乗車し、サドルに正しく座り、転倒を防ぐため右足をしっかりと地面に着けてください。

注意：

発進前にリアブレーキ（フットブレーキ）をかけてください。

3. エンジンを始動し、クラッチレバーを完全に握ってシフトペダルを踏み下げ1速に入れます。クラッチレバーをゆっくりと放しながらスロットルグリップをゆっくりと回すと、車両が動き出します。

注意：

スロットルグリップを急に回したり、クラッチレバーを急に離したりすると、車両が急発進し非常に危険です。

発進前にサイドスタンドが完全に戻っていることを確認してください。

【急ブレーキと急な旋回を行わないでください】

- ・ 急ブレーキと急な旋回は、スリップや転倒の原因となります。
- ・ 急ブレーキや急な旋回は、特に雨天時など路面が濡れて滑りやすいときに、スリップ、横滑り、転倒の原因となります。

【雨天時は特に注意して走行してください】

- ・ 雨天時や濡れた路面では、乾燥した路面よりも制動距離が長くなります。そのため、速度を落とし、早めにブレーキをかける準備をしてください。
- ・ 坂道を下る際は、スロットルグリップを戻し、必要に応じて適切にブレーキをかけながら減速してください。

車両の異常または故障

エンジンが始動しない。

走行中にエンジンが停止する。

このような状態が発生した場合は、まず以下の項目をご自身で確認してください。

1. タンクにガソリンは入っていますか。

2. 始動の要点を正しく操作しましたか。

備考：

車両に異常や故障が見られる場合は、できるだけ早くディーラーで点検を受けてください。

§アンチロック・ブレーキ・システム§ (ABS 搭載車)

ABSは、直進走行中に急ブレーキをかけた際にホイールがロックするのを防ぐために設計されています。ABSはブレーキ力を自動的に調整します。グリップ力とブレーキ力を断続的に発生させることで、ホイールのロックを防ぎ、停止時の安定したステアリング操作を可能にします。

ブレーキの操作方法は、従来のオートバイと同じです。フロントブレーキにはブレーキレバー、リアブレーキにはブレーキペダルを使用します。

ABSはホイールのロックを防ぐことで停止時の安定性を高めますが、以下の特性に注意してください。

- ABSは、路面状況の悪化や判断ミス、ブレーキの誤った操作を補うことはできません。ABSを装備していないオートバイと同様の注意を払う必要があります。
- ABSは制動距離を短縮するために設計されたものではありません。路面が緩い場所、凹凸のある路面、下り坂などでは、ABS装備車の制動距離が、ABSを装備していない同等のオートバイよりも長くなる場合があります。このような場所では特に注意してください。
- ABSは直進時のブレーキによるホイールロックを防止しますが、コーナリング中のブレーキ操作によって発生するホイールスリップを制御することはできません。コーナーを曲がるときは、前後ブレーキを軽くかけるだけにするか、まったくブレーキをかけないようにしてください。コーナーに入る前に減速してください。
- ABSに内蔵されたコンピューターは、車速とホイール速度を比較しています。推奨されていないタイヤを使用すると、ホイール速度に影響を与え、コンピューターの誤判断を招き、制動距離が延びるおそれがあります。



注意：

ABSは、ライダーをあらゆる危険から保護できるものではなく、安全な運転操作に代わるものでもありません。ABSシステムの作動方法とその限界について理解しておいてください。天候、路面状況、交通状況に応じた適切な速度と方法で走行することは、ライダー自身の責任です。

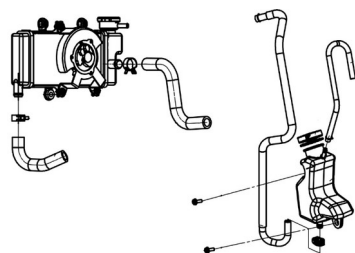
冷却システムの点検

(冷却システムの漏れを点検する)

1. 平坦な場所でメインスタンドを使用して車両を支えます。
2. リザーブタンクの点検窓から、冷却水量が上限と下限のマークの間にあるか確認します。
3. 冷却水量が下限マークに近い場合は、上限マークまで補充します。

(冷却システムの漏れを点検する)

- ラジエーターと配管に漏れがないか点検してください。
- 車両を駐車していた地面に水滴の跡がないか確認してください。



冷却水の補充

ラジエーターキャップは常にしっかりと締めておいてください。

1. 車両を平坦な場所で直立させて支えます。
2. バッテリーボックスのふたを開けます。
3. サージタンクキャップを開け、上限マークまで冷却水を補充します。

- 冷却水量の低下が頻繁に起こる場合は、冷却システムに異常がある可能性があります。
- ラジエーターの錆びを防ぐため、指定以外の冷却水は使用しないでください。

推奨冷却水：SYMはMOTUL MOTOCOOL Expertの様なアルミエンジン対応のエチレングリコールを主成分とする、緑色のバイク用LLCを推奨しています(濃度：50%)



注意：

- 冷却水を希釈する際は軟水を使用してください。
- 品質の低い冷却水を使用すると、ラジエーターの寿命が短くなるおそれがありますのでご注意ください。
- 冷却水は通常、年に1回交換してください。
- リザーブタンクに冷却水を補充してください。
- 冷却システムの整備は車両に取り付けた状態で行うことができます。
- 冷却水を車体カバーの表面に付着させないでください。
- 整備後は、冷却システムに漏れがないことを確認してください。
- エンジンが温まっている状態でラジエータータンクキャップを開けないでください。冷却水が高温のためやけどのおそれがあります。冷却システムの整備は、エンジンが冷えてから行ってください。

- 気温が氷点下になる場合の冷却水濃度と対応温度については、表を参照してください。

14.定期点検整備スケジュール

項目	点検項目	整備走行距離	1000km ごと	5000km ごと	10000km ごと	15000km ごと
		点検整備間隔	1 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月	1 年
1	エアクリーナーエレメント*		I	C	R	
2	オイルフィルター（メッシュフィルター）		I	10,000km ごとに清掃		
3	エンジンオイル（水冷モデル）		1000km ごとに点検、5000km ごとに交換			
4	タイヤ、空気圧		I	I		
5	バッテリー		I	I		
6	スパークプラグ		I	I		R
7	スポーク（該当車種のみ）		I（500～800km で調整）			
8	スロットルバルブのカーボン除去清掃		I		I	
9	ステアリングベアリングおよびハンドル		I	I		
10	トランスミッションの漏れを点検		I	I		
11	クランクケースの漏れを点検		I	I		
12	ブレーキフルード		I	30,000km ごとに交換		
13	ドライブベルト／ローラー／ドライブプーリー				C	R
14	燃料タンクチューブおよび燃料フィルター		I	I		
15	スロットルバルブの作動およびケーブル		I	I		
16	ボルトおよびナット		I	I		
17	ガイド／テンショナー／テンショナーリフター		20,000km ごとに点検			
18	バルブクリアランス		I	I		
19	ショックアブソーバー		I		I	
20	フロント／リアサスペンション		I		I	
21	メインスタンド／サイドスタンド		I/L		I/L	
22	クランクケースブローパイシシステム（PCV）		I		C	
23	冷却水		I	I		R

24	冷却ファン、チューブ	I	I		
25	クラッチ、クラッチアウター、ドリブンプー			C	
26	ブレーキ機構／ブレーキライニング（パッド）	I	I		
27	灯火類、スイッチ類および電気システム	I	I		

☆上記の整備スケジュールは、月間 1,000km を目安とし、走行距離または期間のいずれか早い方を基準として設定されています。

※車両を最良の状態に保つため、正規販売店または特約店で定期的な点検・調整を受けてください。

記号：I～点検、清掃、調整 R～交換

C～清掃（必要に応じて交換）

L～給油

備考：1.車両を砂ぼこりの多い道路や汚染の激しい環境で使用する場合は、エアクリーナーエレメントをより頻繁に清掃または交換してください。

2.車両を高速で頻繁に使用する場合や、走行距離が多くなった場合は、整備をより頻繁に行ってください。

【備考の注記は、該当車種を示すために使用されています。】

15.諸元

項目 \ モデル 仕様	MG12B4-EU					
全長	2080±20mm					
全幅	840 または 970mm±20mm					
全高	1335mm±20mm					
ホイールベース	1405mm±10mm					
シート高	815mm±10mm					
車両重量	163kg±6kg					
モデル	単気筒 4 ストロークエンジン					
燃料	無鉛ガソリン					
圧縮比	11.7±0.2:1					
最高出力	10.5kW/9250rpm					
最大トルク	11.0N・m/7500rpm					
始動方式	セルスターター					
クラッチ形式	湿式多板					
変速方式	6 速リターン式					
変速比	1 速 :	2 速 :	3 速 :	4 速 :	5 速 :	6 速 :
フロントタイヤ	100/90-19					
リアタイヤ	130/80-17					
タイヤ空気圧	フロント : 標準 1.75kgf/cm ² リア : 標準 2.0kgf/cm ² (1 名乗車時) 、 2.25kgf/cm ² (2 名乗車時)					
フロントブレーキ	ディスク式 (Φ288mm)					
リアブレーキ	ディスク式 (Φ222mm)					
ヘッドライト ロービーム/ ハイビーム	12V 22W/45W					
ポジションランプ	12V 1.7W×2					
テール/ストップランプ	13.5V 2.5W/5.5W					
ウインカー	13.5V 1.8W×2/13.5V 1.8W×2					
ナンバー灯	12V 0.257W					
エンジンオイル容量	1.2L (フィルター交換なしの場合は 1.0L)					
燃料タンク容量	14 ⁰ ₋₁ L					
ヒューズ	10A×1 + 15A×1 + 20A×1 + 25A×1					
スパークプラグ	CPR8EA-9					
ECU/キャブレター	形式 : M4B					
	ベンチュリー : CONTINENTAL					

修理・整備記録表

型式： _____ 車台番号（VIN）： _____
 お客様名： _____ 電話番号： _____

No.	走行距離	日付	項目（修理または整備）	状況説明	整備担当者署名

販売店署名： _____ 整備担当署名： _____